

8月公演

# 女流義太夫演奏会

◆ 仮名手本忠臣蔵 身売りの段 かなでほんちゆうしんぐら みうりのだん

浄瑠璃 豊竹 呂秀 三味線 鶴澤 駒清

◆ 一谷嫩軍記 組討の段 いちのたにふたばぐんき くみうちだん

浄瑠璃 竹本京之助 三味線 鶴澤三寿々

◆ 妹背山婦女庭訓 金殿の段 いもせやまおんなていきん きんでんだん

浄瑠璃 竹本 綾一 三味線 鶴澤津賀花

◆ ひらかな盛衰記 松右衛門内の段 ひらかなせいすいき まつえもんうちだん

浄瑠璃 竹本 越若 三味線 鶴澤 賀寿

定期公演では五十五年ぶりの上演!



鶴澤賀寿



竹本越若



鶴澤津賀花



竹本綾一



鶴澤三寿々



竹本京之助



鶴澤駒清



豊竹呂秀

2023年8月20日(日)  
13時30分開演 [13時開場]  
お江戸日本橋亭

東京都中央区日本橋本町3-1-6 日本橋永谷ビル 03-3245-1278

●東京メトロ銀座線三越前駅A10出口徒歩2分

●JR総武線新日本橋駅徒歩2分

主催 ●一般社団法人義太夫協会 / 義太夫節保存会

後援 ●公益財団法人日本伝統文化振興財団

助成 ●



文化庁文化芸術振興費補助金  
(舞台芸術等総合支援事業(創造団体支援))  
独立行政法人日本芸術文化振興会

料金◎4,000円/完全予約制/全席自由  
\*定員になり次第締め切ります。

会員・学生・障がい者手帳をお持ちの方 3,000円

予約受付: 2023年7月19日(水)10時30分より

☎ 03-6265-1880

✉ am-giday@gidayu.or.jp

お一人様2枚まで お電話またはメールにて。  
10時30分より前のメールは無効とさせていただきます。  
\*未就学児の入場をご希望の方は当協会までお問合せください

一般社団法人 義太夫協会 03-6265-1880

〒103-0023 東京都中央区日本橋本町3-1-6 日本橋永谷ビル210

●http://www.gidayu.or.jp/ ●E-mail:am-giday@gidayu.or.jp



## 仮名手本忠臣蔵 身売りの段

寛延元年（一七四八）大坂竹本座にて初演。竹田出雲・三好松洛・並木千柳の合作です。『菅原伝授手習鑑』『義経千本桜』とともに三大浄瑠璃の一つに数えられます。

勘平の舅・与市兵衛は、娘お軽を京都・祇園に売って勘平の士官資金を得ます。ところが与市兵衛はその金を懐に山崎に戻る途中で、斧定九郎に襲われ金を奪われ殺されてしまいます。その金は巡り巡って勘平の手に渡るのですが、それを知らぬお軽は、迎えの駕籠に乗せられて、泣く泣く京へと向かうのでした。

## 一谷嫩軍記 組討の段

宝暦元年（一七五二）十二月豊竹座にて初演。並木宗輔（千柳）、浅田一鳥らの合作。『平家物語』『源平盛衰記』からの脚色で熊谷次郎直実と平敦盛、岡部六弥太と平忠度の二組の筋書きが描かれています。特に直実と敦盛の物語は、菅原伝授手習鑑の「寺子屋」などとともに身代わり狂言の代表作となっています。

源氏の武士・平山武者所を見失

い、馬を波間に乗り入れた敦盛を直実が呼び止め勝負を挑みます。難なく敦盛を組み敷く直実は、我が子と同じ年格好の敦盛を哀れと思ひ助けようと思いますが、それを平山に見咎められ、進退極まって敦盛の首を打ちます。

## 妹背山婦女庭訓 金殿の段

明和八年（一七七二）大坂竹本座初演。近松半二らの合作で、全五段の時代物。当時衰退していた竹本座は、この作品が大当たりして盛り返したと言われる程人気であった作品です。物語は藤原鎌足親子による蘇我入鹿討伐を題材に、大和地方の伝説や謡曲、幸若舞曲などを取り入れて複雑な構成となっています。

三輪の杉酒屋の娘お三輪は、烏帽子折の求馬（もとめ）、実は鎌足の子の淡海に想いを寄せますが、求馬のもとに恋人橘姫が尋ねて来ます。求馬は、姫の後を追って三笠山の御殿にたどり着き、橘姫が入鹿の妹であることを知り、求馬を追ってきたお三輪は、入鹿の御殿に入り込みます。求馬と橘姫の婚が行われると聞き嫉妬に駆られたお三輪は、女中たちにもいたぶられ益々逆上します。そのお三輪を漁師鱈七に姿を変え

て御殿に入り込んでいた鎌足家臣金輪五郎が刺します。

## ひらかな盛衰記 松右衛門内の段

元文四年（一七三九）大坂竹本座初演。文耕堂・三好松洛ら五人の合作による五段の時代物浄瑠璃。外題の「盛衰記」は『源平盛衰記』を指し、源義仲が滅亡する粟津の戦いから一ノ谷合戦までの間の『平家物語』の世界を描いています。

義仲の御台山吹御前と若君駒若丸は、老臣鎌田隼人とその娘腰元お筆に守られて落ち延びますが、大津の宿屋で追っ手がかかり、暗闇のなかで、同宿の船頭権四郎の孫植松が駒若に間違えられて討たれ、山吹と隼人も死んでしまいます。権四郎の娘およしへ婿入りしていた船頭松右衛門とは、実は義仲の家臣である樋口次郎兼光で、舅が孫と取り違えて駒若を連れ帰ったことから、偶然にも若君を守ることとなります。お筆が訪れ、孫の死を知った権四郎は悲憤しますが、樋口の真情込めた説得で納得します。

女流ではほとんど語られない演目で、昭和四十三年四月の本牧亭公演以来、出されたことがあります。五十五年ぶりの上演です。



お江戸日本橋亭 03-3245-1278

### ◎お客様にお願い◎

- 発熱、他の風邪諸症状・体調不良等のある場合はご来場をお控えください。
- 会場内ではマスクの着用を推奨いたします。
- 曲間・幕間に換気を行います。
- 上演中に声掛けをする場合は必ずマスクの着用をお願いいたします。
- 演奏中の私語は周りのお客様のご迷惑になりますのでお慎みください。
- 大きなお手荷物の持ち込みはご遠慮ください。
- 会場備え付けのスリッパは使えません。必要な方はご持参ください。
- ご予約いただいたお客様は、当日受付にて入場料をお支払いください。

### 義太夫協会 会員募集!

義太夫協会主催公演の入場料が割引になるサポーターシステム（賛助会員）は常時会員募集中です。詳しくは義太夫協会までお問い合わせください。

次回9月公演

女流義太夫演奏会 2023年9月20日 [水] お江戸日本橋亭

開演◎18時30分 [開場◎18時] 料金◎4,000円/会員・学生・障がい者手帳をお持ちの方3,000円